

エイジアン・ブリーズ 創刊号・平成3年(1991年)3月発行・年3回発行

# Asian Breeze



アジア女性交流・研究フォーラム紹介  
アジア女性交流・研究フォーラム設立にあたって  
アジア女性交流・研究フォーラムに期待すること  
アジア各国“風”事情  
アジア女性交流・研究フォーラムの軌跡  
フォーラムの窓



**KFAW**

**創刊号**

MARCH 1991. No.1

# Kitakyushu Forum on Asian Women

## アジア女性交流・研究フォーラム紹介

北九州市では女性の地位向上に向けて、市民と市が一体となった活動を展開してきました。その中で、人びとは、女性の地位向上のためには、国際的な連帯が必要であることを認識してきました。

アジア女性交流・研究フォーラムは、人びとの、このような認識のなか、平成2年(1990年)10月20日に設立されました。

### ●フォーラムの目指すもの

女性問題は、「人間の尊厳の問題」です。その意味において、女性問題は、社会全体の共通の問題といえます。21世紀の社会の安定と発展のためには、個々人の主体性が尊重され、その能力が発揮されねばなりません。国際的にも、女性問題は緊急な問題となっています。

女性の地位向上を目指そうとする国際的潮流の中で、アジアにおいては、国の開発の推進と、開発における女性の参加が重要な課題となっています。

アジアの人びとと共に、女性問題について理解を深めることは、アジア地域の発展、平和に大きく寄与するものと考えます。

アジア女性交流・研究フォーラムは、「まなびあい」、「ふれあい」、「たすけあい」ながら、女性の地位向上を目指し、ひいては世界の発展・平和に貢献することを目的として、活動を行います。

### ●フォーラムの活動

交流及び研修活動と、調査・研究を中心とする学術的な活動とが、フォーラムの2本の大きな柱です。

#### 1. 国際交流

市民や学生の訪問団を企画したり、アジア諸国からの訪問団を受け入れたりして、国際交流を図っていきます。文化交流も行います。

#### 2. 研修・セミナー等

技術研修を実施し、これに関する情報の提供に努めます。また、アジアについての理解を深めていくため、セミナーを実施します。

#### 3. 調査・研究

社会の現状、女性問題の背景、開発と女性とのかかわりなどを課題とし、関係機関とも連携しながら、調査・研究を行います。

#### 4. 情報の収集及び発信

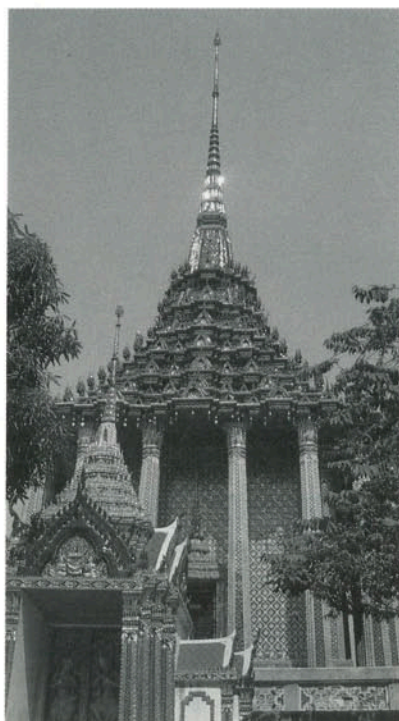
書籍、情報誌、ビデオなどを収集し、公開します。アジアや女性に関する情報を発信します。

#### 5. 内外関連団体との連携

#### 6. ボランティアとの協力

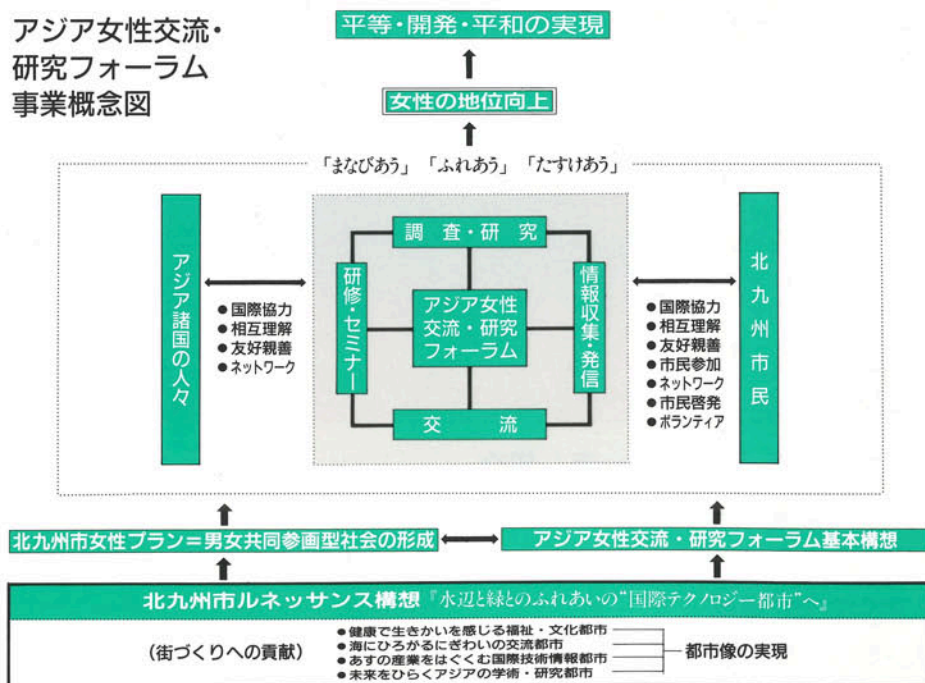
アジアの女性を支援するボランティアグループと一緒に、協力し合って、活動していきます。

#### 7. 市民団体のネットワークの形成



▲タイ・エメラルド寺院

### アジア女性交流・研究フォーラム 事業概念図



## アジア女性交流・研究フォーラム設立にあたって



### アジアの人びとと共に

アジア女性交流・研究フォーラム  
理事長 高橋 久子

アジア女性交流・研究フォーラムが平成2年(1990年)10月20日に発足してから早4カ月が過ぎました。

設立記念行事、アジアフェスティバル、アジア女性問題懇談会等の行事を通じ、たくさんの方がたご参加をいただき、フォーラム職員一同、みなさまの女性問題への関心の深さを、身をもって感じております。

このフォーラムは、アジアの人びとと共に女性問題について考え、アジア地域の女性の地位向上に寄与することを通して、世界の発展・平和に貢献することを目的としています。

この目的を掲げ、フォーラムでは、より多くの人びとにフォーラムの活動を知っていただき、より身近な問題として、アジアと女性の問題をとらえていただきたいという思いから、このたび、フォーラム情報誌“Asian Breeze”を発刊する運びとなりました。

“Asian Breeze”が大きな風となり、アジア女性交流・研究フォーラムが今後目的に向かって力強く歩み続けていけますよう、皆様のご協力とご支援とをよろしくお願い申し上げます。



### アジアの女性の地位向上を目指して

北九州市長 末吉 興一

北九州市の「ふるさと創生事業」として、「アジア女性交流・研究フォーラム」が設立されました。

アジア女性交流・研究フォーラムは、アジアの女性問題について調査・研究を行い、アジア諸国の人びととの交流を進めていく機関です。

このような機関が、男女共同参画型社会の実現を目指す北九州市で設立されたことは、大変意義のあることと思われま。女性も男性も、ひとりの人間として、十分にその力を発揮できる社会を目指し、動きだすときです。

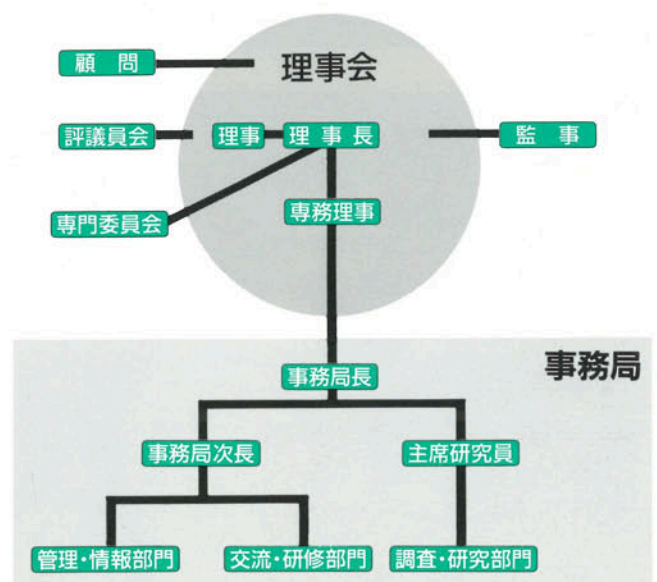
自分たちが住むこのアジアの中で、女性の地位向上を目指しての、共に「まなびあい」「ふれあい」「たすけあい」ながらの活動は、アジア諸国との新しい関係を築き上げていくものとなるでしょう。

アジア女性交流・研究フォーラムが、アジアの女性の地位向上という目的の実現を目指して歩み続けていけますよう、市民の皆様のさらなるご理解とご支援とをよろしくお願いいたします。



▲バン格拉デシュ・ダッカ

### 組織図



# アジア女性交流・研究フォーラムに期待すること

法務省法務総合研究所長 敷田 稔

東筑高校出身の私は、「ふるさと創生事業」女性フォーラムを産んだ北九州の英知を誇りに思う。末吉市長や関係者の英断と努力にまず敬意を表したい。

その発展を期待して、希望を述べる。まず、憲法論を推し進める理論的運動より、両性の支持を得ながら、女性の地位や社会貢献度の一層の向上を期する現実的的事业でありたい。また、自治体モノ一主義との戦いもある。眼前の直接的利益が市外の人に帰属するように見えても、その総体的受益者は常に北九州市民であるよう、工夫をこらして欲しい。情勢が変化しても永續するよう、独立採算的基盤の確立に努めることも望まれる。

北九州市の世界に冠たる脱工業化への軌跡を素材として、工業化を進め行くアジア社会での理想的女性像を掘り出し、これを実現するための現実的施策を研究して頂きたい。こうなれば、郷里の誇る世界的貢献となる。

北九州女性会議代表 石田 ヒロノ

このたび、「アジア女性交流・研究フォーラム」が設立されましたことを、永年、女性問題の解決に向けて活動を進めてきた者の一人として、心からうれしく思います。

私ども市内の女性団体は、女性の地位向上を目指してさまざまな活動を続けてきましたが、とりわけ、ナイロビ世界会議NGOフォーラムへの参加を通じて、国の違いを越えた女性問題を認識し、身近なところからの国際的な交流や協力が必要であることを実感しました。

この「アジア女性交流・研究フォーラム」は、生活の中から学び、地域で学び、次第に視野と関心をひろげていった北九州市の女性たちの活動が、実ったものです。私たち女性は、この事業を通して、アジア地域の人びととの国際交流、国際協力を進めていきたいと思えます。そして、アジアの方がたと共に、成長していきたいと考えています。





韓国女性開発院院長

キム ユン ドク  
金 胤 徳

## 韓国の女性の地位と 韓国女性開発院の業績

韓国の社会が都市化され、核家族化が進むにつれ、消費水準は上がり、臨時の収入が求められています。出生率が低下したことによって、30才以上の既婚女性が子育てをするうえでの負担は軽減し、また、家事の負担も家電製品の普及によって軽減されています。

産業構造、社会認識の変化により、女性の経済への参加が進み、1989年には女性の雇用率は46.5%に押し上げられました。

しかし、女性の雇用は、若年、低賃金、低い技術レベル、単純反復作業、低い地位、そして未婚ということばで言い表せます。女性は、雇用の機会から、賃金、昇進、配属、教育研修、退職、辞職、そして一時解雇にいたるまで、あらゆる雇用の段階において均等に扱われていないのです。

したがって、大学を卒業した女性の事務職、専門職及び管理職への進出は、実際には、男性と比較した時、非常に難しいものとなっています。

高い教育熱にもかかわらず、大学に進学できた女性は、1990年で全体の32.1%にすぎません。

女子学生が好んで専攻する学科が、芸術、教育、語学、文学に集中しているということが、ここであげられるべき問題点です。この状況を改善するためには、中学、高校生の職業開発教育が見直されるべきであり、特に、科学技術分野での女子学生の興味を育て、才能を育てていく必要があると思われます。政治や行政の分野での女性の参加は、依然として低いままで。1945年に韓国政府が樹立されてから、女性大臣はわずか8人のみで、5級以上の女性行政官は、1990年には、全体のわずか1.3%にしかすぎません。現在の国会議員では、総数299名のうち、女性議員はわずか6名、全体の2%です。女性裁判官、女性弁護士は、1951年に女性が初めて司法部の高級官僚への試験に合格してから、わずか74名がいるだけです。また、1989年現在の韓国の平均寿命は、74.9歳で、60才以上の人のうち、女性が占める割合は61%に達し、また、女性が一生の間に産むことも、平均1.6人となっています。



▲韓国女性開発院全景

以上のような女性に関する統計が示す通り、韓国の女性のたゆまざる進展にもかかわらず、解決されなければならない問題が、いまだ多く残されています。

韓国女性開発院では、1983年の設立以来、女性の地位向上と女性の福祉増進のための、さまざまな研究とワークプロジェクトを実施してきました。

開発院は、女性に関する政策のための基礎資料を編集し、その調査レポートを発行し、第6次国家経済社会開発5ヶ年計画の女性開発部門の計画策定に参加してきました。開発院は、「西暦2000年に向けての国家長期発展構想—女性部門報告書—」を出版しています。また、「雇用機会均等法」、「母子福祉法」、「売春防止法」などを含む法律の制定や改正に貢献してきました。教科課程における性差別の内容や表現を改訂するため、中学、高校における教科書の調査を行い、また、文教部(文部省)は、第5次学校教科課程審議委員会に委嘱して、教科課程にみられる性的偏見の見直しを実施しました。このことにより、学校で使われる教科書の内容は、1989年から両性平等の原則に添った改正が行われ、男子の技術科と女子の家庭科はひとつの教科に統一されました。

韓国女性開発院は、女性の雇用を増大するため、職を求める女性を支援するための「雇用情報ガイダンスとカウンセリングセンター」を設立し、また、女性の人的資源を組織化し、女性の能力を示すために「女性ボランティアバンク」を設立しました。

家庭内保育や、小規模経営などの新しいタイプの職業の開発をしながら、開発院は、女性の職業を多様化してきました。これらの新しいタイプの職業のパイロットプログラムを女性団体に提供し、女性団体は、このプログラムを全国に広めていったのです。

韓国女性開発院は「女性に対する差別撤廃のためのガイドライン」を作成し、1985年に「女性政策審議委員会」によって採用されました。この「ガイドライン」は、女性雇用のための基礎的な参考資料となっています。また開発院が出版した「女性白書」、「女性に関する社会統計と指標」は、女性政策や女性学のための基礎的資料として使用されています。

最近では、開発院は、地方自治制度の導入を見越して、女性の政治的リーダー養成のためのリーダーシップ研修プログラムを提供し、そして、女性の地位を確保し、女性の活動を育てるために、国内中の女性団体とのネットワークを確立しています。

(日本語文責 アジア女性交流・研究フォーラム)

# アジア女性交流・研究フォーラムの軌跡

## ■基本構想委員会の設置と 基本構想の策定 平成元年(1989年)11月1日

フォーラムの理念と活動の提言を得るため、基本構想委員会(高橋久子委員長)が設置されました。平成2年3月30日には、委員会における活発な意見交換、審議の結果、「基本構想委員会提言」が市長に提出され、この提言を基に、7月、基本構想が策定されました。



## ■各区イベント 平成2年(1990年)2月~3月

女性団体を中心に構成された各区実行委員会主催により、北九州市内7区で「アジア」と出会う催しものが行われました。

内容も区によりさまざま。バラエティーに富んだパネリストを迎えての講演会やシンポジウム、留学生や研修生、在住アジアの人びととの交流会、スライドやビデオによるアジア各国の紹介、アジアのふるさとの味自慢料理……この催しを通じて、アジアとアジアの女性問題に対する関心も、一段と深まったものと思われます。



## ■'90アジア国際シンポジウム

平成2年(1990年)3月31日

各区イベントのしめくくりとして、インドネシア、韓国、マレーシア、日本のパネリストを招いて、アジアの女性の現状を知り、課題を明らかにする国際シンポジウムが開催されました。

それぞれのパネリストが自国での女性の現状を熱心に報告し、その後、活発な意見交換が行われました。



## ■アジアセミナー 平成2年(1990年)6月~9月

アジアの中に住んでいながら、知っているようで知らないアジア。そんなアジアの国ぐにの歴史や文化、共通する女性問題などを学ぶ公開セミナーが、10回連続で開催されました。

初年度である今回は、「アジア事情入門」編。

定員を上回る応募があり、関心の深さがうかがわれました。

今後はさまざまなテーマで、多面的、多角的に「アジア」を取り上げていきます。



## ■アジア女性交流・研究フォーラム の設立 平成2年(1990年)10月20日

7月に策定されたフォーラム基本構想をその理念とし、アジア女性交流・研究フォーラム(理事長、高橋久子)が、設立されました。

アジアの女性の地位向上、ひいてはアジア地域の開発・平和への貢献を目的とする活動の中心となる組織の発足により、より一層力強く、目的に向かって前進していけるものと考えます。

この日、フォーラムの設立を記念して、東京高等裁判所の伊東すみ子判事による、「国際社会における女性の役割」をテーマとした講演会が開催されました。



## ■アジアフェスティバル

平成2年(1990年)11月30日~12月2日

フォーラムの設立を記念し、「アジアの文化と女性」というテーマを掲げて、アジアフェスティバルが開催されました。

さまざまな言語が並ぶアジアの教科書、中国の秦の時代の兵馬俑の展示、アジアをとらえた講演会、アジア各国の映画、21世紀の夫婦・家庭・仕事をテーマに討論した女性カンファレンス、人物と照明の織りなす影が見事に演出されたマレーシアの舞踊団の舞踊劇、そして、みんなで語り、踊った交流会。

アジアを体で感じることでできた3日間でした。

## ■アジア女性問題懇談会

平成2年(1990年)12月8日

アジア12ヶ国14名の女性問題行政担当を招いて、各国の女性問題についての取り組みの報告と、意見交換を行いました。テーマは「アジアの女性の現状と未来」。

この14名は、総理府・外務省が実施した「婦人問題に関する国内本部機構上級担当官セミナー」に参加された方がたです。忙しい日程をめぐって、地方視察の一環として北九州を訪問されました。



## 基礎調査を実施しています。

アジア諸国で女性問題の解決に向けて活動している団体や個人の情報を収集するための調査を実施しています。

女性問題は多岐多様です。アジアのそれぞれの国では、どのような問題を抱え、その解決に向けてどのような団体が、あるいは個人が、どのような活動や研究を行っているかを調査します。

アジア諸国の現状を把握し、アジア女性交流・研究フォーラムがどのような取り組みをしていけば良いのか、また、どのような団体や個人と連携して、調査研究を行い、交流活動を行えるかを考えるための基礎データとなるものです。

まず、本年度は、中国・韓国・インドネシア・マレーシア・タイ・シンガポールの6カ国を対象に実施しています。今後も、地域を拡大しながら、調査を実施していく予定です。



## フォーラムの窓

### “Asian Breeze” 事始め

いろいろな風がある。

子供たちがはしゃぎまわる動きにつれてコスモスを揺らす風もあれば、熱帯の海洋から水蒸気が大量に上昇・大移動して災害を繰り広げるサイクロンや台風もある。

“Asian Breeze”は、人と人の等身大の動き、交流がもたらす、新鮮で温かさのある風であらいたいものだ。宮沢賢治は、子供は未来に向かって吹く透明な風、と書いているが、女たちだって風人間になれる。女たちがまき起こすアジアのそよ風も未来へと吹き渡っていこう。

フォーラムの設立にかかわる中で、顧問としてご助力下さった故高橋展子さんの講演を興味深くお聞きしたことがある。アメリカの民間研究機関「人口の危機委員会」が、教育・労働・保健衛生・社会参加・家庭生活等について共通の項目を指標として使い、世界99ヶ国の女性の社会的地位を比較したデータについて話された。トップは、言うまでもなく(？)スウェーデン、続いてフィンランド、アメリカ、東ドイツ。女性の地位4番目の東ドイツが16番目の西ドイツに併合されたことの意味は大きい。国連婦人の十年以降、女性解放運動は、「平等・開発・平和」をスローガンに走ってきた。多分これに「民主主義」ないし「自己決定」を加えるべきだったのだ。

日本は34番目である。アジア地域の中では香港に次いで高いが、GNPと比べて何という低さだろう。最下位がバングラデシュだった。—— そうだ、この国に行ってみよう——

差別や人権の問題を自分の問題として考える時、ひとつの有効な方法は、自分の日常生活から最も見えにくく、しかも最も困難な状況にあると思われる人びとにわが身を重ねてみればよい、といつの頃からか信じている。早速、無けなしの金をつぎこんで2人分の航空券を買い、進路決定に揺れている高2の娘を誘って、ダッカへと旅立った。私たちは文字通り、「出会い」「ふれあい」を求めて ASIAN BREEZE になったのだ。

ダッカでは木賃宿に、ラヒシャイでは大学のセミナー・ハウスに滞在させていただいた。あふれる好奇心とつましい友情の持主である多くの人びとと友達になることが出来た。今年3月、第1回アジア女性会議—北九州にお招きしたマムダ・イスラムさんもそのお一人である。

こうやって、“Asian Breeze”がより豊かに、より確かに、より広く育っていくために、参加と支援を心からお待ちしています。

アジア女性交流・研究フォーラム  
主席研究員 篠崎 正美

# INFORMATION

## ●OASCが発足しました

平成2年(1990年)10月、第1回アジアセミナー終了後、1つの自主グループが産声をあげました。その名は、OASC(Our Asian Seminar Circle. オアスク)。セミナー受講者の中から、「もっと、もっとアジアを学びたい」という人たちが集まって結成された、自主活動グループです。

OASCは、会員相互、また他のグループとの情報交換を行いながら、主として、アジアを中心に国際理解と交流を深めるために研修や実践を行っていくことを、その活動の趣旨としています。

早速、実際の活動について尋ねてみたところ、大学の先生のお話を聴いたり、国際関係のセミナーなどに参加したとのこと。1月には、「アジアの食文化」と題して、日本に住む外国の方を招いて話を聞き、その後、タイ風チキンカレーと韓国風キムチ入りお好焼きを作ったとのこと。

1991年10月には、マレーシアへの海外研修も、検討しているそうです。「実際に、語り合ってみて初めてその国のことがわかるんですよね。話してみないと、今までわかっていなかった、ということに気がつかないんです。」との代表の田中さんの言葉が印象的でした。

関心のある方は、OASCの活動をちょっとのぞいてみませんか。きっと、新しい「何か」にふれることができると思います。

お問い合わせ (093)471-7065 田中さん宅まで

## ●フォーラム海外通信員を募集します!

情報誌“Asian Breeze”に掲載する海外からの情報を提供して下さる方を募集します。アジア諸国に住んでいる方をご紹介いただけませんか。

主な活動は、年に4回の通信レポートの提出で、任期は1年です。海外での生活状況、女性を取り巻く状況などの、フレッシュな情報をお待ちしております。

お申し込みの締切は、5月20日です。

詳しいお問い合わせは、フォーラム TEL (093)551-1220  
FAX (093)551-7535まで

表紙写真：インドネシア・ジャカルタの公園にて

## ●フォーラムシンボルマークのご紹介



このたび、アジア女性交流・研究フォーラムのシンボルマークが決定しました。

フォームは、アジアのA、小文字のaを表し、女性たちが協力しあい伸びていく様子を表現しています。

イメージは、無限の可能性です。

オレンジは、太陽、女性、アジアを、

グリーンは、自然、知性、さわやかさを表しています。

## 編集後記

地を踏みしめる力強さと、手の動きの繊細さが伝わってくるマレーシア舞踊、経験に基づいた説得力のある講演……12月のアジアフェスティバルを通じて、人の持つエネルギーを感じました。

この“Asian Breeze”も、人のエネルギーに敏感である情報誌でありたいと思っています。

(K)



## アジア女性交流・研究フォーラム

〒802 北九州市小倉北区浅野3丁目9-30 北九州国際会議場8F  
PHONE(093)551-1220 FAX(093)551-7535